

會告

▲其後の入會者左の如し
京都市西石垣四條南入

正 松岡友次郎

茨城縣結城郡菅原村

贊 坂野富五郎

茨城縣那珂郡平磯町

正 小神野三男四

麴町區飯田町二ノ三十二

正 瀧澤靜雄

福岡市外春吉三番町堀方

贊 稻垣重雄

兵庫縣明石町檀屋町一六一の一

贊 枝吉延太郎

岐阜縣稻葉郡蘇原村野口區

贊 安積幹雄

▲賛助會員平井爲成氏は退會せられ候

▲會員徽章は漸く出來致候 希望の方は送料共金四十錢送付せられたく候

▲初號以來本誌直接讀者にして會員たる方には徽章は無償にて進呈致すべき筈に付、

送料を添へて御申出ありたく候但書留にあ

らざれば途中紛失等の場合にて再送の時は

實費を請求可致候

▲徽章は其色によつて正會員と賛助會員と

を別つ豫定なりしも色彩配合上結果よろし

からず候に付、一様に綠色と致候

からず候に付、一様に綠色と致候

▲批評を求めらるゝ作品には筆者の名、畫題又は番號、月日、寫生の時刻、其日の晴曇等、なるべく詳しく一々附記致されたく候又御送付の分は毎月二十日より月末迄に評箋を認め翌月五日迄に返付致候筈に付、二十日以後御送付の分は翌々月迄取殘さるゝとも可有之候

■ ■ ■

□夏期講習會の第一部は八月三日より十五日間大阪市天王寺桃山中學校に開くとに決定致候、又第二部は八月一日より二週間澁温泉場に開會致候、此方は長野市に於ける洋畫同好者の發起に係るものに候、詳細は廣告欄を御一覽有之度候

□丸山大下兩氏は、双方に出席可致心組に候處、會場の都合にて開期殆ど同一と相成候爲め、遺憾ながら別々に擔任すると相成申候

□講習會出席者は會場の都合も有之候に付、可成早く御申込有之度候

□本號口繪は草木のスタデーにして、繪の大きさは七寸に一尺一寸程、時は六月初旬の午前、二時間宛三日間を費して寫生せしものに候

□次號以下には山本氏の木口版のついき、ニコルソン式木版、石川氏の水彩畫研究家への忠告、畔川氏の俳畫論、丸山氏的美術

館水彩畫等續出致すべく候

評

●富士十二景 中澤弘光畫

京橋 金尾文淵堂

上の卷六枚木版畫帖(壹圓貳拾錢)

三保より見たる夏の富士、長濱より見たる朝の富士、田子の浦よりの風の日、三坂峠よりの黒き富士、精進湖よりの夕の富士、富士川よりの朝の富士等である、第一と第三最もよく他の四枚もそれ／＼面白い趣を見せてゐる、圖様は何れも奇抜で、簡單ではあるが含蓄の多い色が使用されてゐる、伊上氏の木版の技術も頗る精巧を極めたもので、筆者の意を忠實に傳へたか如何か知らぬが、版畫として見ると實に結構なものである。此畫帖は、初學者の手本とするよりは寧ろ參考とすべきもので楯間に掲げて愛翫すべきものである

■ ■ ■

□大阪に於ける夏期講習會に出席せらるゝ地方の人々の爲めに寄宿所を、南區生國魂(イクタマ)町西照(サイセウ)館と定め置候。講師大下氏は八月二日迄に出張同家に投宿可致候